



ROKKO NEWS

http://www.rokkorugby.com

特定非営利活動法人
六甲クラブ

全国大会 決勝直前号

4強の鬼門突破!日本一王手!

六甲魂爆発! R K U ドラゴンズから9トライ!



さあバーバリアンズに
リベンジだ!

全国クラブ大会準決勝
(2月18日 パロマ瑞穂)

六甲ファイティングブル	
59	R K U 龍ヶ崎
1940	
147	
21	
R K U 龍ヶ崎	
1107	R K U 龍ヶ崎
2220	
14	
59計21	

- FW 加村 太一(大産大) 上田 隆(帝京大) 永田 大朗(龍谷大) 上野 雄太(阪南大) 青山 亮太(北大院) 中村 圭佑(関学大) 西谷 将克(大体大) 福島 勇樹(筑紫台高) 谷 晋平(天理大)
 - HB ヘンリー(※1) 三木 勇太(甲南大) 前田 宣郎(天理大) 村尾 真秀(立命大) 玉川 英人(関学大) 安部 都兼(関学大)
 - TB 安部 都兼(関学大)
- ※1 ニューカッスル大

六甲日本一王手! 「第25回全国クラブ大会」は4日、愛知県名古屋市のパロマ瑞穂ラグビー場で行われ、六甲ファイティングブル(近畿①)はR K U ラグビー龍ヶ崎ドラゴンズ(北関東・甲信越)に59-21で快勝し、5大会ぶりに決勝にコマを進めた。試合は序盤から接点で学生チームのドラゴンズに優位に立ち、前半だけで6トライ。風下の後半もドラゴンズの反撃をかわし決勝切符をつかんだ。ここ4年、準決勝の厚い壁に苦しんできた六甲が大きな壁をぶち破り、5大会ぶり7度目の日本一を全員でつかみ取る!

過去4年準決勝で引き分けること2回。4年分の情熱が一気に爆発した。R K U 龍ヶ崎ドラゴンズに59-21。六甲ファイティングブルがついに「鬼門」を突破し、5年ぶり13回目の決勝進出を決めた。

「先手必勝」の言葉通りの前半だった。開始早々のスクラムで六甲FWが8人の魂となったドラゴンズを押し込んで試合の主導権を握った。敵陣で有利に試合を進める中、7分左中間から左に展開。C T B 村尾が力強く前進。最後はW T B 玉川が先制のトライをあげた。

「学生のドラゴンズが波に乗る前に点を稼ぐ」。S H 谷は序盤から意識的にペースを上げる。11分にはターンオーバーしたスクラムから左に斬り込み大きく前進。パスをすると見せかけさらに前進。167センチの小さな身体を大きく伸ばしてタッチダウン。12-0とした。

ドラゴンズに7点を返されるが、12分にはC T B 前田の個人技でトライを奪い、流れを引き戻す。

前の試合、駒場戦での大苦戦の経験が、六甲戦士の血となり肉となり大きく成長させていた。学生の素晴らしい展開にデフェンスが乱れ、あわやトライかという場面、逆サイドから回ってきたW T B 玉川が猛タックル。その直後にW T B 三木の快足トライが生まれ24-7と有利に試合を進めていく。前半終了間際には、相手反則のわずかなスキを見逃さず、再びW T B 三木が激走トライ。安部のゴールも決まって40-7でのハーフタイムとなった。

「予想以上に前半うまくいった」と中村主将。だが、相手は走力とスタミナあふれる学生。しかも風下だ。ハーフタイムで気を引き締め直し勝負の後半に入る。

キックを生かして迫りくるドラゴンズ。6分に7点を返され、嫌なムードが漂う。しかし六甲は前に押し上げるデフェンスで展開するドラゴンズにプレッシャーをかけていく。後半11分には相手デフェンスの裏を通したS H 谷のグラブキックにW T B 三木が反応してハットトリックを達成した。17分にはNo.8 福島がトライ。35分にはW T B 三木がこの日自身4本目となるトライをあげて、勝負を決めた。

9トライを奪う快勝劇の裏には、FWの頑張りがあった。「この試合はFWにかかっている」と試合前には中村主将、語っていた通りに、接点と局面で、士気に当たり勝ち、試合を優位に「ぶ」ことができた。B K 陣のトライも、FWの踏ん張りから生まれたものが多かった。

5年ぶりの決勝舞台に戻ってきた六甲。日本一をかけて戦うのは因縁深き北海道バーバリアンズだ。4年前にはラストワンプレーで同点に追いつかれ、トライ数差で涙をのんでいる。ようやくあの時のリベンジができる挑戦権を手に入れたのだ。

「ここで勝たなきゃ意味がない。絶対に勝って新しい六甲クラブの歴史を作ります」と中村主将も言葉に力がこもる。

7回目の日本一へと一つ。六甲ファイティングブル、今はただ走り抜けるのだ。



